

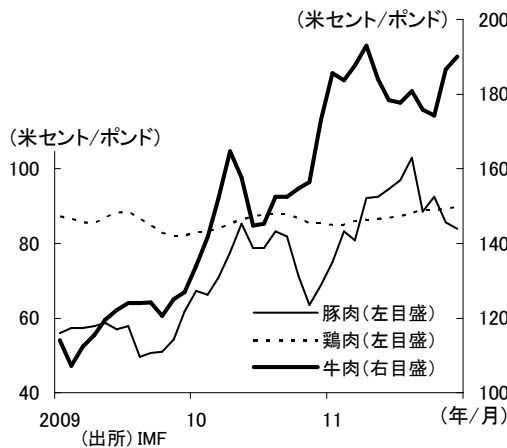


上昇圧力強まる食肉価格

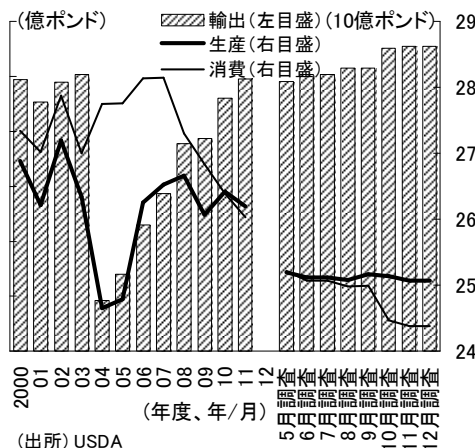
～ 需給逼迫下、一段の上昇が視野 ～

- (1) 昨年入り後、牛肉や豚肉、いわゆる赤肉価格が高止まり（図表1）。とりわけ牛肉は、昨年4月の193セント/ポンドをピークに5月以降、弱含んでいたものの、10月をボトムに再び強含み。12月には既往最高水準へ。
- (2) 主因は需給逼迫。とりわけ新興国の消費が大幅増。総じて新興国の食肉生産は増加。しかし、国内需要の増加に追い付かず。その結果、例えば中印は輸入に一段と依存。ブラジルは輸出減。一方、先進国の生産は低迷。世界最大の食肉生産国アメリカの牛肉動向をみると、まず輸出は着実に増加（図表2）。BSE問題による2004年度の大幅減から立ち直り。12年度は過去最高を更新する見込み。しかし、12年度の生産量は04～05年度とほぼ同水準まで大幅減へ。さらに、国内消費量は08年度から年を追って減少。12年度は243.8億ポンドと1993年度以来の低水準に。
- (3) 牛肉の生産減少は飼料価格の高騰が主因（図表3）。飼料価格は昨年入り後、高値圏で推移。08年7月のピークに比べれば、コーン価格は上回っているものの大麦や大豆は1割前後低い水準。一見すると、過度の値上がりダメージの深刻視は不要。しかし08年7月の高値は持続せず、翌8月から急低下。それに対して今回は高値圏の推移が定着。とりわけ肉牛の場合、数年の飼育期間が必要ななか、飼料価格の高止まりは深刻な採算悪化に。
- (4) 際立つコーン価格の上昇はエタノール需要増が主因。そうした情勢下、昨年末、原油価格が再び強含み（図表4）。このところの原油価格とガソリン価格の相関性に照らせば、仮に原油価格の上昇が現状水準で止まっても、ガソリン価格の値上がりは不可避。ガソリン価格上昇は、エタノール需要の増加を通じてコーン価格を上昇させ、飼料価格の値上がりを通じて食肉価格の上昇に拍車を掛ける懸念大。新年は、新興国のハイペースの経済発展と需要増に伴う値上がり圧力の持続に加え、中東情勢が懸念材料。

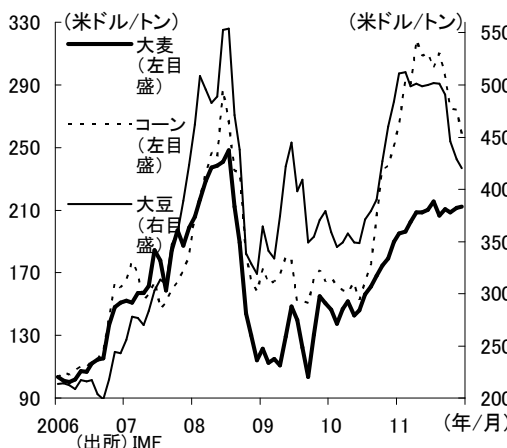
（図表1）食肉価格の推移



（図表2）アメリカの牛肉生産・消費・輸出量



（図表3）飼料穀物価格の推移



（図表4）原油価格とアメリカ・ガソリン価格

